

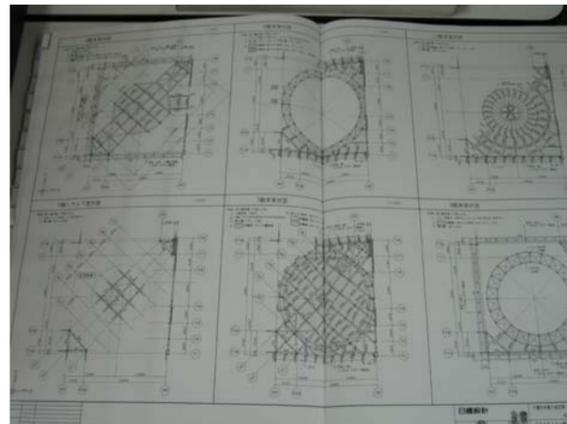


会員レポート

「大同コンクリート工業（株）
茨城工場、（杭製造工程の見学会）」

（一面からの続き）

1. 工事概要
当建物の工事概要は以下のようになっています。
工事名称：千葉中央第六地区第一種市街地再開発事業
施工場所：千葉県千葉市中央区中央4丁目の一部
発注者：千葉中央第六地区第一種市街地再開発組合
設計・監理：（株）日建設計
施工者：大成・清水建設共同企業体
用途：事務所、店舗、公共公益施設、自走式駐車場
敷地面積：6,614.13㎡（2,000.80坪）
延床面積：50,755.09㎡（15,353.40坪）
構造：SRC造、一部RC造、S造、場所打ちコンクリート拡底杭
階数：地下1階、地上15階、塔屋1階
軒高 71.66m 最高高さ 79.26m
各階用途：アトリウム、産業振興会館、中央区保護福祉センター、こども科学館、子育て支援プラザ、児童センター、商業施設、駐車場、公共用大型バス駐車場
工期：平成17年4月～平成19年7月
平成19年10月グランドオープン
構造的特徴：制震ブレース採用、大スパン梁端部等にオイルダンパー設置、アトリウム部の荷重を支える大規模三角形組立て柱の採用等



プラネタリウム部分の設計図書一枚

会員委員会定期便

お知らせ：ただいま名簿の整理中です。

（明智、斉藤（利）、鈴木）

2. 構造計画、構造設計における特徴

- ①制震ブレース、ダンパーを利用することにより建物の地震時挙動を安定させ、用途の異なるフロアの架構計画の変化（剛性のばらつき）等に対しスムーズな応答性状を確保すべく考慮されている。
- ②アトリウムの鉄骨精度はガラスカーテンウォールの受け材（耐風梁も兼ねる）として仕上レベル同等の製品精度、施工精度が要求され、それを実現している。
- ③アトリウム周辺、3階の多目的ホール、子供科学館エリアのロングスパン空間を確保するために設けられているトランスファーガーダー端部に粘性ダンパーを組み込み、高い減衰性能を確保している。
- ④コストをかけても実現する必要がある部分と無駄なコストを徹底して排除する部分の判断を徹底している。また発注者の意向、意匠設計者との意思の疎通を欠かさず、設備設計者との連携の中で構造設計者としてのあり様を追求している。

日建設計村上主管から、関連部署と連携を密にとることの重要性について具体的な内容を基に伺うことができた。

3. 工事における特徴

- ①アトリウムの鉄骨建方計画において、建方精度を保てる仮設計画を追及して行った。
- ②敷地周辺に十分な作業スペースを抱えていない中で、いかに精度を保ち、工程に沿った作業が進められるかを揚重計画を主に説明された。

4. まとめ

今回の見学会は、千葉市のシンボリックな施設であると共に、計画上においてもアトリウム部エントランスなどの魅力的な空間を有することから、構造設計者にとっても興味をそそられる建物であり、多くの参加を頂くこととなった。（株）日建設計村上勝英主管からは計画概要、構造設計概要、工事監理の苦労話を、大成・清水JV森下修副所長からは施工計画概要、現場での苦労話などを伺うことができ、参加した構造設計者にとって大いに参考となる情報を得ることができた。（園部 隆夫 記）

岡部株式会社千葉工場見学会の報告

去る10月27日ベースパック柱脚工法の製造メーカーである岡部株式会社の構造実験センター・千葉工場の見学会を行いました。ご多忙の中、19名の参加ありがとうございました。



千葉工場は野田市にあり、全国で利用されているベースパックはこの千葉工場と京都工場の2箇所生産されているそうです。

われわれを乗せたバスは、千葉・船橋・流山それぞれに集まっていた人々を乗せて千葉工場に着きました。会議室で概要説明を伺った後、3班に別れて見学しました。

構造実験棟では、試験室の方から、グラウト材の施工方法と試験体と実験結果についてな説明を受けました。確実な施工は、人間工学的な観点も必要とのことでした。また、試験体は柱

脚から柱梁仕口・スリーブ補強等、多岐に渡っていました。メーカーにとって実験という裏づけが大事だと思いました。

工場棟では、ベースパックの生産ラインに沿ってベースプレートの板取・アンカーボルトの製作工程等を見学して丁寧な説明を受けました。特に転造ねじについて皆さんの関心が集まりました。また、随所に廃棄物を減らす工夫が見られました。

会議室に戻って質疑応答を行い、転造ねじについて説明を受けました。

普段、何気なく設計図書に書き込んでいる認定工法も、性能確認・品質確保のためには、よく整理整頓された工場と関係者の真摯な努力と研究があると思いました。

見学会の後は、今年もビヤガーデンにて会員間の親睦を深めました。

今回ご協力いただいた岡部株式会社の平川さん菅野さん始め関係者の皆様、準備と親切な説明、大変ありがとうございました。

会員委員会では、昨年の大同コンクリート工業株式会社茨城工場でのコンクリート既成杭の製造工場の見学、今年の岡部株式会社の柱脚工法の実験センター・工場の見学に続き、来年も見学会・勉強会を企画したいと考えています。皆さんのご意見ご希望をお寄せください。もちろん懇親会も同時開催です。

会員委員会、齋藤（利）記

判定会のルール作りをウォッチングする

— 構造計算適合性判定の説明会に参加して —
免震システムサービス 富島誠司

12月15日に県の責任者による説明会があった。新しい確認審査や判定会に関するものであり、3月に講習会6月実施との工程の説明もあった。その後参加者（約70名）との間での質疑回答が行われた。

質疑では一日の判定件数が多くはないか、設計者と判定員で意見が食い違った場合はどうするか、判定-確認の流れに時間が掛かりすぎないか、等であり参加者同士にも意見の違いも出たりして関心の深さを感じた。回答では具体化が遅れているとの釈明もあった。現段階で目に見えるのは判定機関の組織のイメージであり、「何をどのよう

に審査するか」の基本が一番難しい問題で立場により意見が異なることを印象づける結果となった。

しかし我々が認識しておく必要があるのは、新しい判定制度はJSCAがピアチェックとして提案して生まれたいきさつがある。ここでは構造設計者は職能からは説明役であるが、今回の制度は判定する立場に廻る場合があり関連が大変深くなっていく。

国及び県は「審査指針」作りの最中であるが事件の後遺症から決め事が現実から遊離したり過重になる虞もある。JSCAとしては判定会には協力を惜しまない姿勢と共に構造設計がむやみに過重にならないようにウォッチングしていく必要がある。